



# 研究者を最優先した従来にない全く新しい制度の創設

---

平成21年4月21日  
科学技術政策担当大臣

# 研究者を最優先した従来にない全く新しい制度の創設

## 我が国の研究開発の制度改革

~研究者を最優先した制度への転換~

### 現状の制度

#### 行政機関の立場での構築

各省の所掌事務（縦割り）、国の予算制度が基本

現場で何が起きているか・・・

- ◆ 予算の執行：  
「**現行の予算執行**」 = 「**研究者にとって使いづらい**」
  - 行政区分により制度が細切れに
  - 単年度主義が、あらかじめ予測できない研究開発というものに馴染まない。独立行政法人の「運営費交付金」によりある程度の自由度は確保したものの、多年度の執行、研究者の発想を全て受け入れるような自由度なし。
  - 各独法の予算の硬直化により、大胆な投資が困難に。
- ◆ 研究者の負担：「**研究どころか雑務で大変**」
  - 各種の申請資料の作成、資金の執行、更に事前、中間、事後の度重なる評価など過大な雑務が発生
- ◆ 独法の役割：「**研究者より役所に配慮**」
  - 国からの資金を研究者に配分するとの姿勢

### 新たな制度

#### ユーザーたる研究者の現場目線での構築

「研究者」の能力を課題解決のため最大限発揮出来ることが基本

これで現場はどう変わるのか・・・

- ◆ 予算の執行：「**研究者にとって使いやすい資金**」
  - 研究者が基礎から出口志向の研究開発まで幅広く使える研究費を持ち、研究者の裁量で、人件費、設備整備費、会議費、チーム研究者へのグラントなどに使える**自由度の高い運営**を可能に。
  - 加えて予算制度に縛られない**多年度での運用**を可能に。
- ◆ 研究者の負担：「**研究に没頭できる環境**」
  - 「サポートチーム」の結成により、研究者が**研究に集中出来る体制**を確立。
  - 事後評価の徹底により「評価疲れ」を軽減
- ◆ 独法の役割：「**お客様（研究者）目線への転換**」
  - 研究者の求めるサポートを複数の独法がカスタマイズして提案し、**研究者がより良いサービスの独法を指名（逆指名）**

研究者がもてる力を最大限を発揮することで最先端研究開発課題を加速的に推進し、将来の日本の発展力に!!

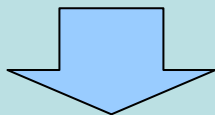
# 世界最先端研究支援強化プログラム(仮称)

～研究に集中できるサポート体制、多年度に自由に運営できる研究資金など、  
研究者を最優先とした従来にない全く新しい制度の創設～

## Step1

### 中心研究者・研究課題の特定

総理、科技担当大臣、総合科学技術会議有識者議員、有識者等



我が国を代表する研究者(中心研究者)及び研究課題を設定

3～5年間で得られる具体的成果を明確化  
中心研究者は指揮命令系統のトップ

## Step2

### 中心研究者による研究支援担当機関の指名

設定された研究課題の実施支援機関を公募



独立行政法人(JST、NEDO、理研、産総研等)、大学、企業等による研究チーム、サポートチームの提案

(公正、透明な手続きの実施)

### 中心研究者による研究支援担当機関の指名

## Step3

### 研究の実施と評価

中心研究者、研究支援担当機関を中心とした研究開発の実施

中心研究者  
研究支援担当機関

支援/協力

大学

支援/協力

企業

支援/協力

独法

3～5年間で世界をリードする研究成果を達成  
研究終了後は徹底した事後評価を実施

研究開発資金の提供

研究強化支援プログラム推進基金(仮称)の創設

適切な独立行政法人(候補:日本学術振興会)\*に、多年度にわたって本プログラムを推進するための基金を設立 \* )設置法改正が必要